

そして再び、かもめが飛んだ

5月7日、かもめ活動再開。初回は国見町榊海地区の住民に声かけし、30名分のお弁当の依頼を取りまとめました。その後、ラーメンカフェ・明星にお弁当を注文し、各家庭に配達。かもめスタッフは高齢者にお弁当を渡しながら、体調を気遣い、会話を交わしました。一人一人とはわずかな時間のやり取りでしたが、久々の再開に自然と笑みがこぼれます。



ありがとう、大丈夫

お弁当持って来たで。

元気にしちよるかえ？

困ったことはねえかえ？

他地域にも広げて  
高齢者の孤立を防ぎたい

**見守りお弁当配達事業**は、新型コロナウイルスの影響下でも見守り活動が行えるだけでなく、飲食店の支援にもなるため、地域全体に貢献できる画期的な事業だと思えます。さらに、この事業がかもめ利用者の相談から始まったということも特筆すべき点です。かもめが地域から信頼され、必要とされていることが改めて実感できました。

この事業は、少ないスタッフでも実施できます。我々としても、この取り組みを他地域に広げていき、高齢者の孤立を防ぎたいと考えています。話を聞いてみたい、参考にしたいといったご要望がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。  
**【問合せ先】**国東市社会福祉協議会  
福祉支援課  
0978-64-7100



国東市社会福祉協議会  
生活支援コーディネーター  
松本 博晃 さん

地域の笑顔のために、  
この事業を続けます



かもめ 会長  
坂口 弘道 さん

新型コロナウイルスの影響で、地域で人を見かけることも、会話をする機会も減っています。高齢者の居場所をつくること、が我々の役割だったのですが、ウイルス感染防止のため活動休止となつてしまい、悔しい思いをしていました。

何かできないかと考えていたところ、かもめ利用者からの相談があったことが活動再開の契機となりました。**見守りお弁当配達事業**は、お弁当の配達を通じて、ウイルス感染の危険性を抑えつつ、地域の見守り活

動ができます。短い時間でも高齢者と顔を合わせて、困りごとを聞くだけでも大きな意義があると思っています。

一環として、新型コロナウイルスの収束後も続けていきたいですね。今日は久しぶりに利用者に会えて、本当に嬉しかったですよ。元気な姿を見て、安心しました。これからもこの事業を続けて、地域の皆さんにお弁当と笑顔を届けたいと思っております。

熊毛地区の「大輪」も活動スタート

かもめに続いて熊毛地区の地域支え合い活動「くまげ支えあいの会・大輪」も、お弁当の配達を兼ねた高齢者見守り活動を開始。5月22日、大熊毛地区の住民に34個のお弁当を配達し、声かけを行いました。会長の田本邦彦さんは「かもめの良い取り組みを知り、大輪でも始めることにしました。皆さんの笑顔を見て、こちらが元気をもらいました。利用者の反応は上々なので、この活動を広げていきたいです」と話していました。



大輪スタッフの皆さん(右端:田本会長)